



映像



不登校の子どもの卒業後の支援は

ソーシャルワーカー以外は整っていない



ふじもと かずみ 議員
藤本 和美

問 中学卒業時、不登校の人数は。

答 教育部長▼令和2年から5年推移で8人、14人、20人、33人、31人と増加傾向。33人からの減少は、近年の様々な支援が要因。

問 中学校卒業後の支援の現状は。

答 在校時にスクールソーシャルワーカーの支援を受けていた生徒のうち、現在10人が支援継続。全てのケースに対応できるわけではない。

問 不登校の子ども親は横のつながりがなく、気軽に集まれる場所を求めている。設置できるか。

答 進路説明会は30人以上の参加があり、情報交換の場になった。気軽に集まれる場の提供は、今後の課題として検討。

問 不登校の子どもが中学校を卒業してからの支援方針は。

答 ソーシャルワーカー以外の支援体制は整っていない。近隣市の子ども若者総合相談支援センターなどを調査研究し、課題について検討する。

ことば解説
「※スクールソーシャルワーカー」
学校において児童・生徒が抱える様々な問題を解決するため支援を行う専門職。

ケアマネジャーのシャドーワーク周知を

隣接市と情報共有しリーフレット検討



学校給食費無償化の実施を

国の流れに沿って進めていく



まるやま ちよこ 議員
丸山 千代子

学校給食費の無償化は、子育て支援と同時に、憲法26条の「義務教育はこれを無償とする」という立場から学校給食費の無償化を。

問 国は学校給食費の無償化は令和8年度を目指すとしているが、進捗状況の把握は。

答 教育部長▼現段階では情報が変わりにくく、動向は確認できない。

問 国は小学校からとっている。町独自でも令和8年度から



野菜たっぷりの給食

小中学校合わせて実施すべきではないか。

答 町長▼小中同時進行がベターであると思うが、多大な経費を要するため国の流れに沿い、独自で考える視点には立っていない。

問 学校給食費の公費計化で、教員の負担軽減を。

答 教育部長▼岡崎、蒲郡市が公費計化されている。調査研究したい。

修学旅行費等の無償化実施を

保護者負担軽減の動向を見て判断

高齢者の居場所、日常生活支援を

地域包括支援センターで充実させたい



たきょう つよし
田境 毅 議員

ドライバーが休憩しやすい環境を

普通車とトラックに分けて敷地確保



映像



「筆柿の里幸田」が防災道の駅に選定されたことは大きなチャンス。これまでの課題解決をはじめ、地域に新たな活力をもたらす戦略的な施設機能拡充の、またとない機会である。

問 道の駅リニューアルにより、道の駅エリアを活用した雇用創出は課題だ。

答 環境経済部長 ▼施設増設などにより、新たな担い手の創出や、雇用対策にも繋げたい。

問 利用するドライバーが休憩しやすい環境づくりを。

答 普通自動車専用と、トラック専用を、別の敷地に分けて確保し、新設するトラック専用駐車場には、トイレや自販機コーナーなどを設置、イベント開催できるスペースを提案したい。



路上駐車の間を通過する利用者（道の駅筆柿の里幸田）

委員会レポート

福祉産業建設委員会

管内視察

町内5施設の状況について学ぶ



老人福祉センターの状況を確認

● 幸田町老人福祉センター 7月15日
昭和33年建設、年間約8000人の高齢者の利用があり、健康増進、教養の向上などに寄与し、利用者に喜ばれる施設である。

課題

- 施設老朽化により、風呂の利用停止など利便性が損なわれている。
- 完全バリアフリーでなく、高齢者に優しい施設でない。

対策

- 施設の大改修もしくは移転も含め、建て替えが必要。



粗大ごみ集積場運用状況を確認

● 幸田町粗大ごみ集積場 8月8日
平成15年4月、JA筆柿選果場であった当施設を借り受け、集積場として運用開始。令和6年12月、土地、建物をJAより買収。

課題

- 年末、年度末など搬入車両の渋滞発生により、近隣住民に迷惑がかかる。
- 昭和44年建築の建物で老朽化から大規模改修が必要。

対策

- 規模拡大して、利用しやすい施設への改修の検討が必要。（他3施設を視察）